

BUỔI 01

Dạng bài so sánh



Luyện tập

問題 1 :

この前、教師まへ きょうしの人と話していて、子供が TV ゲームばかりして、友達同士どうし遊ばないから困っているとぼやいていました。

TV ゲームに対するもっとも一般的な批判ひはんです。僕はいつも、この批判を聞くと、それは正しいのだけれど、だけど、先生、あなた方だって、カラオケで盛り上がるでしょう、つまり、ゆっくり酒でも飲みはじめたら、

誰のどんな批判が飛び出すか分からないから、その空間くうかんを避けるでしょう、もちろん、僕もそうですよ、スタッフや役者同士が酔っぱらって何を言いだすか分からない時は、カラオケに走るのがもっとも安全な方法ですから、と心の中で思ってしまうのです。

そして、子供は、そういう大人の生活の知恵ちえを敏感びんかんに知っていて、友達の家に遊びに行って、何を話そうかと緊張する瞬間、ある者は TV ゲームのスイッチを入れ、ある者は『スラムダンク』のコミックを手取るのですよ、と思ってしまうのです。

問い：この文章の内容として最も適切なものはどれか。

1. 子供が TV ゲームをするのは、まだ子供たちだけでカラオケに行けないからだ
2. 子供が TV ゲームをするのは緊張を避けるためで、大人がカラオケに行くのと同じだ
3. 子供が TV ゲームをすることを批判するなら、大人もカラオケに行くべきではない
4. 子供が TV ゲームをするのは、カラオケほど他人から批判されず、安全だからだ

問題 2 :

現在、学校の部活動や地域の少年スポーツチーム、クラブには、参加の意志さえあれば誰でも参加できるようになっています。それでいて、万が一事故が起こった場合は、現場にいる指導者や、施設管理者だけに責任があるかのように思われています。一般に、一つの部やクラブ、チームの部員数が 30~40 人くらいになることは、それほど珍しいことではありません。しかし、それだけの大人数の安全や健康状態を完璧に仕観察し、適切な判断をたったひとり、もしくは数人の指導者でおこなうことは不可能に近いことです。

問：この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

1. 指導者は、指導中の事故にもっと責任を持つ必要がある
2. 部員は、指導者に自分の健康状態を報告する義務がある
3. 自分の意志で参加しているので、事故の責任は部員本人にある
4. 少人数の指導者や管理者で数十人の部員の安全を守ることとはできない

問題 3 :

人の嫌がる仕事を進んで引き受けたり、お年寄りやハンディキャップをもつ人を的確にお世話するボランティアの姿を見てみると、「すごい。自分にはできない」と感じてしまう人は多いかもしれません。

でも、こうした行動や態度は活動をしていくなかで徐々に身についていくものです。ボランティアをしているのは特別、正義感が強いやさしい人ばかりというわけではありません。

ボランティアを始めた動機に「おもしろそうだから、興味があったから」と、好奇心や探求心をあげる人はたくさんいます。責任をもって活動できるなら、きっかけは何でもいいのです。むしろ、「よいことをする!」という気負いがなく、自然体でボランティアに関われる人も多いのです。

問い：この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

1. 特別な人でなくても、責任感さえあれば、誰でもボランティア活動はできる
2. お年寄りやハンディキャップをもつ人を的確に世話できる人は、ボランティア活動に向いている
3. 正義感や責任感はなくても、もっと気軽にボランティア活動に参加してほしい
4. 「よいことをする!」という気持ちが強くなければ、ボランティアはできない

問題 4：

近代以前の社会では、職業はおのずと定められていることが多く、選択の幅はきわめて小さかった。さらに、生まれて死ぬまで同じコミュニティ 社のなかで暮らす人が多かった。

それに対して近代社会では、人びとは自由に職業を選択できる。また国内ならば自由に移動することもできるし、自由に起業したり、趣味やボランティアのサークルをつくって活動することもできる。

つまり、近代社会では一人ひとりの「自由」という理念が大切にされ、さまざまな自由な活動が保証されている。そしてそれに対応して、社会の側も、不特定多数の人びとやモノや情報がさまざまに行き交うに。空間となっているのである。

問い：この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

1. 近代以前、人はずっと移動せずに暮らしてきたが、近代以降は移動の自由を得た
2. 近代社会では個人の自由が重視され、職業選択や移動等の活動も自由になった
3. 近代以前は自由がなかったため、近代社会の人びとはそれを非常に大切に考えている
4. 近代社会になって自由が保証されたが、人も情報も多すぎて社会が不安定になった

問題 5 :

知名度の高い執筆者ばかり適当に揃えて一冊の雑誌をつくる編集は、たとえば、インスタント食品(をうまく使って食卓を賑わす料理人みたいなものだ。失敗の危険は少ないかもしれないが、創る喜びは少ない。

そこへゆくと、まだ固いつぼみ(注 2)を見つけ出して、これにあたたかい春の風を送り、花に育てる編集の仕事はそれ自体がひとつの芸術である。そういうことの可能なエディターはそれほど多くいるとは考えられないが、すぐれた才能の開花のかけにはきわめてしばしばこういう創造的編集が存在するのではあるまいか。

問い：この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

1. まだ有名でない執筆者の才能が開くかけには、優秀な編集者がいる
2. 雑誌をつくるということは、花を育てるように創造的で芸術的な仕事である
3. 簡単につくられた雑誌より、時間をかけて編集された雑誌のほうが内容が良い
4. 優秀な才能を持つ編集者がいれば、より良い雑誌がつくれるようになる